

世田谷区平和都市宣言事業

ヒロシマ・アピールズ ポスター展

令和6年8月4日(日)～8月23日(金)

「ヒロシマ・アピールズ」は、言葉の壁を越え、デザインの力で平和を訴えるために、毎年1枚、日本を代表するデザイナーがポスターを制作し、国内外に発信する活動です【主催：広島国際文化財団、ヒロシマ平和創造基金、日本グラフィックデザイン協会（JAGDA）】。純粋に中立な立場から「ヒロシマの心」を表現するこれらのポスターは、今年で28作目になります。ポスターに描かれた平和のメッセージをぜひ見にいらしてください。

2022年ポスター 佐藤可士和「NO NUKES NO WAR」

毎年、平和首長会議の加盟都市へポスターの寄贈もされています。

協力：日本グラフィックデザイン協会

いわさきちひろ平和パネル展

令和6年9月13日(金)～9月29日(日)

平和をテーマに絵本画家いわさきちひろさんのパネル展を開催します。被爆した子どもたちが綴った詩や作文にちひろが絵を描いた絵本『わたしがちいさかったときに』（童心社）、自身の体験した戦争とベトナム戦争の子どもたちに思いを馳せた絵本『戦火のなかの子どもたち』（岩崎書店）などから複製画を展示します。世界で紛争の絶えない今、展示を通して平和な未来を考えてみませんか。



いわさきちひろ「チューリップとあかちゃん」1971年

協力：ちひろ美術館

語り部のお話会とギャラリートーク

7/27(土) 13:30～15:00

世田谷の空襲や学童疎開を体験した増田陽子さんを囲んだお話会と、企画展「皆で探ろう せたがやの戦跡と戦争体験」のギャラリートークを開催します。お話会は大学生がナビゲートします。



小中学生の参加大歓迎です

申込：7月15日より平和資料館へ電話または窓口 先着15名

絵本の読み聞かせと館内ガイドツアー

8/4(日) 14:00～15:00 先着10名

戦争や平和についての絵本の読み聞かせと、常設展のガイド、クイズラリーをします。

対象：小学校高学年（小学生以上であれば参加できます）（直接会場へお越しください）



下馬図書館連携事業

平和のランタン作りワークショップ

8/17(土)、24(土) 各13:30～14:30

和紙に押し花や絵の具で彩るやさしい光のランタンです。作ったものはお持ち帰りできます。小さなお子様から大人まで楽しめます。



申込：7月15日より平和資料館へ電話または窓口 先着10名

ボードゲームで遊ぼう

8/17(土)、24(土) 各15:00～16:00

平和のカードゲームやすごろくなどを体験しましょう。

※小学校高学年から大人まで楽しめます。



申込：7月15日より平和資料館へ電話または窓口 先着10名 空気があれば当日参加可

平和映画祭は、8/2(金)に、8/3(土)に開催します
詳細はホームページをごらんください



◇ヒロシマ・アピールズ ポスター展 令和6年8月4日(日)～8月23日(金)

◇いわさきちひろ平和パネル展 令和6年9月13日(金)～9月29日(日)

◇平和映画祭 ◇展示・イベント情報 ◇企画展ダイジェストレポート ◇平和を考えるコラム 哲学対話について

世田谷公園の中で
のんびり一日あそぼう！

へいわしりょうかんで
クイズラリーもできるんだって♪

せたがやこうえんって
たくさんあそべたのしいね♪

せたがや未来の平和館は、子どもから大人まで、誰もが平和について考えたり対話するきっかけとなる場所になればと願っています。



世田谷公園には・・・

夏はイベントがいっぱい！

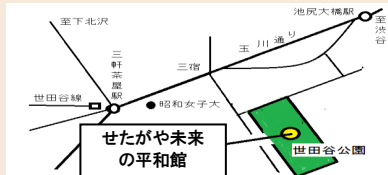
自由な遊び場！
フリースペース！

フールもあります！

ミニSLも走ってます！



- 開館時間 午前9時 ～ 午後5時（入館は午後4時45分まで）
- 入館料 無 料
- 休 館 日 毎週火曜日（火曜日が祝日の場合は翌水曜日）年末年始（12/29～1/3）
- 所 在 地 〒154-0001 東京都世田谷区池尻1-5-27 世田谷公園内（野球場となり）
- ☎ 03-3414-1530 FAX 03-3414-1532



企画展 7/31まで開催！
★7/27にギャラリートークします

皆で探ろう せたがやの戦跡と戦争体験

ダイジェスト
をお届け

よく見るまちの風景に、戦争の記憶があった。週末子どもと遊んでいる世田谷公園で、兵隊さんが馬に乗って訓練していた。毎日通る淡島通り付近が空襲で焼け野原になり、軍馬が走って逃げて行った。おじいちゃんのお店が246沿いにあったが、防火のために取り壊された。

あらゆる形で一人ひとりの生活が影響されるのが戦争。身近な地域の戦争体験者の思いや気持ちから、戦争と今の生活との関連性を考えさせられる。今回の展示では、世田谷区内の戦跡と体験者の証言を地図に表示し、戦争体験の場所を可視化する展示を試みた。次世代の私たちの生活につながる戦争体験を残していきたい。

【展示品】 赤堤で撃墜されたB29の破片

B29とは、空襲で使われたアメリカの爆撃機のこと。昭和20年5月の空襲にB29が赤堤に墜落した事件を多くの人が目撃しました。翌朝牧場に並べられた米兵の死体をわざわざ見物感覚で押し寄せる人がたくさんいたという。またパラシュートで脱出した米兵を見て「この子にも母親がいる」と思い、

「可哀そう」とつぶやいたところ「非国民」と叱られたという証言もあります。（『東京大空襲・戦災誌 第二巻』）
「敵」の顔すら見たことのない昔と「敵」の情報が溢れる今の時代。共感と対話が生まれるのはどちらなのか、考えさせられます。

戦争当時のお話

手記、写真 募集中！

ぜひ平和資料館にお連絡ください



防火演習（代田）

代沢・三宿

富士中学校・駒場学園高校あたりは戦時中陸軍獣医学学校だったが、5月25日の空襲で全部焼けてしまった。戦後その敷地内で遊んでいた、馬の骨がいっぱいあった。（代沢一丁目在住の語り部）

用賀

桜町高女には陸軍の家庭の人が多く、クラスを小隊とか学年を中隊とか呼んでいた。一・二年生の時は勤労奉仕で、学校で白衣を作っていた。傷痍軍人の だったのかもしれない。（世田谷の女性たちは語る聞き書き集（二）P44-45）

太子堂

爆撃機を察知したかのように愛犬が普段と違ってブルブル震えていた。それで空襲だと気づき早めに備えることができた。（『太子堂の空襲』P9-12）

奥沢

八幡小学校入学時、それまで着物の子が多かったが、海軍の子たちは洋服を着てランドセル背負って、都会的で中流家庭の子が揃っていた感じだった。（『里から町へ』P360）

南烏山

男が戦死し、女だけで畑をやって一家の生計を立てているのに、肥料の配給で「なんで女が来たんだ、男がいねえのか」って言われて悔しかった。（『里から町へ』P210）

赤堤／松原

松沢小学校の前まで逃げたときズボンに火が着いてしまい、消止められ病院に連れていかれたが、あの時の火傷はケガするたびに自然治癒のできない傷になる。（『東京大空襲・戦災誌第二巻』P629-633）

【展示品】

深沢小学校 御真影・勅語 運搬箱

御真影とは、天皇・皇后の写真のこと。当時、子どもたちは登校時に、天皇の写真が保管されている「奉安殿」に向けて、最敬礼をしなければなりません。また、移動が必要ときは運搬箱に入れて運びます。

深沢小学校の卒業生も「式日には、校長先生が礼服を着て白手袋をつけ、ご真影を背負って二階の打ちぬき教室の式場まで運んだ」と振り返りました。（『ふかさわ創立五十周年記念誌』1976）

空襲など非常時の場合も、校長先生が当直の先生にはそれを避難させる義務があり、それで命を失う人もいました。今では考えにくい、人の命よりも写真の方が大事にされる時代でした。



深沢国民学校の奉安殿
（深沢小学校提供）

好評により秋頃に2回目開催します！

まち歩きツアー：語り部に会いに行こう（5月19日実施）

暑すぎないちょうどいい天気の中で、参加者9人と一緒に、三宿地区会館から平和資料館まで約2時間歩いた。前半は語り部の方が実際に空襲に遭った場所で話を聞き、後半は騎兵第一聯隊址や馬糧倉庫など池尻の陸軍施設の跡地を見学しました。

～参加者の感想～

「体験された方の話を空襲にあった場所で聞け、当時の状況を鮮やかに想像することができました」「母が体験した世田谷空襲、生前に断片的な話は聞いていましたが、本日、体験者様の話が直接聞けたことは大変貴重なイメージが湧いてきました。」



語り部の丹後さんと一緒に回った富士中学校、駒場学園高校あたりは、普陸軍獣医学学校であり、昭和20年5月の空襲で焼けてしまった。

令和6年度 世田谷区平和都市宣言事業

平和映画祭

8/2(金)・8/3(土)

いわさきちひろ ～27歳の旅立ち～

子どもたちへの愛と平和の願いを絵に込めたいわさきちひろの生涯を追ったドキュメンタリー。



©ホライズン・フィーチャーズ・CHIHIRO ART MUSEUM

●上映日時

- ①「いわさきちひろ～27歳の旅立ち～」
8月2日(金)10:00～11:50
②「ヒロシマへの誓い ―サーロー節子とともに―」
8月2日(金)13:30～15:10
③④「この世界の片隅に」
8月3日(土)③10:00～12:15／④13:30～15:45

ヒロシマへの誓い ―サーロー節子とともに―

広島での被爆体験から核兵器廃絶を訴える平和活動家サーロー節子の生涯を描いたドキュメンタリー。



© 2019 Not Just Survivor Film, LLC

●会場：世田谷区立平和資料館

●対象：どなたでも ●入場無料

●申込：せたがやコールへ

電話またはFAX（各回先着25名）

●申込期間：7月15日(月)～7月31日(水)

この世界の片隅に

戦時下の広島を舞台に一人の女性の日常と感情を繊細に美しい映像とともに表現した物語。



© 2019 こうの史代・コアミックス / 「この世界の片隅に」製作委員会

ライブラリーおすすめ図書 今回は映画祭にちなんだ絵本を紹介します

わたしがちいさかったときに<原爆の子>他より

長田新 編／岩崎ちひろ 画／童心社／1967.7.20

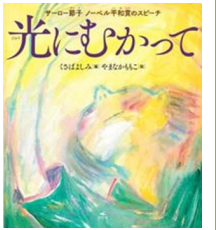
広島で被爆し、炎の中で両親や友を失った子どもたちの詩と作文に、いわさきちひろが鎮魂の絵を添えました。



光にむかって サーロー節子 ノーベル平和賞のスピーチ

くさばよしみ／編 やまなかももこ／絵／汐文社／2022.6.2

13歳で被爆し、核兵器廃絶の運動を続けてきたサーロー節子さん。ノーベル賞授賞式でのスピーチが絵本になりました。



平和を考えるコラム 哲学対話について

平和の「問い」を語り合ってみませんか

皆さんは、日頃「問い」をもって生きていますか？ 何かに疑問や違和感を抱いても、「問い」として向き合うことはない方も多いでしょう。哲学対話とは、そうした疑問や違和感から生まれた「問い」を出発点として皆で言葉を交わす営みです。それは、お互いの話を聞きながら、じっくり丁寧に考える時間でもあります。例えば、平和とはどのような状態でしょうか。私はどのようなときに平和を実感するのでしょうか。なぜ、戦争は良くないと感じるのでしょうか。そのような普段は考えることのない「問い」を、皆で共有して語らい合うのが哲学対話です。ぜひあなたも、せたがや未来の平和館で、「平和」について他の人と一緒に考えてみませんか？

梶谷真司『考えるとはどういうことか—0歳から100歳までの哲学入門』幻冬舎新書2018年。
河野哲也編『ゼロからはじめる哲学対話』ひつじ書房、2020年。